

アートな気分で
ひとときのお茶を

ART & Cafe

Vol.3

泉麻人さんと めぐる神楽坂の アート&カフェ



独自の切り口で東京の街を語る泉麻人さんと、
新宿区のおちこちにあるアートな場所へ。
散策のあとには、味のある喫茶店でほっとひと息つきましょ。
第3回は、神楽坂の器をテーマにめぐります。



ASATO IZUMI
コラムニスト。1956年、新宿区中落合出身。週刊TVガイドの編集者などを経て独立。「青春の東京地図」「大東京23区散歩」などをはじめ東京を題材とした著書が多い。「東京ふつうの喫茶店」や「東京いつもの喫茶店」などの喫茶本も刊行。



山下漆器店



新宿区神楽坂5-13 ☎03-3269-2385
平日11:00~19:00
日・祝13:00~18:00
不定休 →P.14 C-2

ちょっとした江戸切子博物館

棚に並んだ江戸切子のなかで、とりわけ人気が高いのは「日本伝統工芸士」にも認定された瀧澤利夫の作品。少しずつこの店で買い集めている、マニアックな女性ファンもいるらしい。



江戸切子って奥が深いんですね

陶柿園

新宿区神楽坂2-12 ☎03-3260-6940
平日11:00~19:00
日・月・祝の中で不定休(営業の場合 13:00~17:00)
→P.14 D-2



趣向に富んだ漆器がいっぱい

一見地味な漆器も、じっくり眺めるとなかなかバラエティーに富んでいる。ちなみに昔は、もっと生活家具が多かったそうで、昭和30年代の写真には「鯉のぼり」「ひな人形」などの看板が写りこんでいた。



ぜひ手にとって漆の温もりを感じてみてね!



山下弘子さんは、戦後まもなく嫁いできたときから、ずっと店の2階で暮らしている。昭和30年代の初め頃は、2階上の物干し台から飯田橋のホームが見渡せたそうだった。最近では、随分奥の方まで店が増えてきたけれど、「ギャラリー&カフェ帝」は赤城神社の門前にある。神社の赤鳥居が見える窓辺に、オーナーが各地の窯場などから集めてきた小皿や器がレイアウトされ、一つひとつに手書きの解説が付いている。壁に飾られた浦地思久理絵師の人物画も印象的だが、こは珈琲やサンドウィッチ(京風フワフワ玉子サンド)の味も格別だ。

黒塚の料亭や石畳の路地：いまも花街の趣を残す神楽坂には「陶柿園」が何軒かある。まずは「陶柿園」を訪ねた。昭和23年から神楽坂で営業するこの店で、有田焼や萩焼の陶器とともに目を引くのが切子ガラスの品々。江戸切子、そして薩摩切子のグラスや花瓶は淡い藍の仕上げが実に美しい。ちなみに店内には、ちょうどこのころいう和風の店には珍しいハードロック(U-2)が流れている。どうやら、いまの3代目店主は自らバンドもやるロック好きらしい。

大久保通りと交差する神楽坂上の角に、昔から「山下漆器店」は90歳になるおばあちゃんが一人で切り盛りする老舗で、庶民的な塗物の器や盆が所狭しと陳列されている。象合塗、春慶塗…といった品目のなかに「マカロンの茶筒」なんていう、いまどきの品札が出ているのがおかしい。店主の



ラ・ロンダジル La Ronde d'Argile



新宿区若宮町11 麻耶ビル1F ☎03-3260-6801
平日11:30~18:30(祝日は18:00まで)
日・月 →P.14 C-3

素朴な雰囲気もあるコアな店

オーナーの平盛さんは見るからに「オシャレの目利き」という雰囲気の方。個人的には、「中津藩」という神奈川県愛川町(厚木郊外)の小さな工房で作られた素朴なモロコシ箸が強く印象に残った。

店内の喫茶店へ

ギャラリーでは、作品を眺めながらカフェでひと休みができる。温もりあるデザインのコーヒーカップや器で味わうとまた格別だ。



オリジナルブレンドのコーヒーとフレンチトーストをデザートに

今日は気分でもう一軒行ってみよう



ギャラリー&カフェ 帝 Mikado

赤城神社門前の休憩スポット

日本津々浦々の器あり…。野趣な信楽焼の花ピンには、昔野原でよく見掛けたヨウシュヤマゴボウが生けられていた。窓向こうに垣間見える赤城神社の緑がいい感じの借景になっている。



店内の喫茶店へ

赤城神社がすぐそば! お店はココ!
新宿区神楽坂6-34-4 Felice神楽坂2F ☎03-3235-3222
平日11:30~19:00 水 →P.14 B-1

